

「是旃陀羅問題」に関する 教区学習会

2024年1月に学習テキスト『御同朋を生きる』（是旃陀羅問題学習資料編纂委員会）が発刊されました。本テキストは2023年5月に発刊された学習冊子『是旃陀羅問題について』に続いて、各組で課題共有の学習会を実施することを願って作成されました。

名古屋教区では例年「是旃陀羅問題」に関する教区学習会を開催しており、去年は学習冊子を中心に学びを深めました。本年は、この学習テキストを中心に「是旃陀羅問題」を一人ひとりの課題として受け止め、『仏説観無量寿経』を改めて学ぶ機縁となることを願って教区学習会を開催いたします。

日 時：2025年**2月19**日（水）16時～19時

場 所：名古屋教務所 議事堂

講 師：名和 達宣氏
（教学研究所 所員）



講 題：『御同朋を生きる』の要点と課題

聴講料：無料

※お手持ちの学習テキスト『御同朋を生きる』を事前にご一読の上ご参加ください。お持ちでない方は当日配布いたします。

※教師陞補のための聴講証発行対象の研修会になります。裏面に必要事項をご記入の上、お申し込みください。

王舎城の出来事は、韋提希自身が生きてきた自らの凡夫性をあらわにする出来事であったのであり、『観経』は、そうした救われ難い「凡愚底下の罪人」の自覚の徹底において阿弥陀仏の浄土を願う存在として（「部落差別問題等に関する教学委員会 報告書」より）救われていく道が語られている。差別社会によって「是旃陀羅」とはじめられた阿闍世王は、かろうじて殺人を思いとどまる。しかし、徹底した差別社会における凡愚低下の人である「旃陀羅」の救われていく道は語られていない。

- (1) 私たちは、「是旃陀羅」問題と真宗の関わりの歴史を直視し、その罪責に向き合っていかなければならない。
- (2) 『観経』における「是旃陀羅」問題についての学びを進めるとともに、そのことを通して『観経』をあらためて受け止め直していかなければならない。
- (3) 同朋会運動推進において掲げられている「人の誕生」と「場の創造」は、差別問題への取り組みと別にあってはならない。僧侶・門徒における「是旃陀羅」問題に関する学びを具体的に進めていかなければならない。
- (4) 『観経』の読誦について「痛みを感じる」という声を真摯に受け止め、読誦の問題についても検討しなければならない。

「部落差別問題等に関する教学委員会 報告書」より

日程

15:30	受付
16:00	開会・真宗宗歌・挨拶
16:10	講義①(90分)
17:40	休憩
17:50	班別座談会
18:50	講義②(20分)
19:10	振り返りシート記入
19:15	閉会・恩徳讃

※今後の展開に向けて皆様からいただいた意見を活用させていただきます。

2/10(月) までに下記の項目について電話、FAX、メールのいずれかで申し込みください

第 組 寺・教会 氏名 _____

電話 052-331-2468 FAX 052-321-5845
mail nagoya@higashihonganji.or.jp